

世界史研究推進委員会

共同研究「高大連携」および「世界史への興味・関心を育む教材・指導法の研究」経過報告

舞岡高等学校 中山拓憲

2018年度も、県内の高等学校を会場としてお借りし、2か月に1回のペースで委員会（例会）を開催し、その他、高大連携講座等の催しを行ってまいりました。会場を貸してくださった各学校の関係者の皆さまをはじめとして、協力して下さった方々に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

世界史研究推進委員会では、タイトルの「高大連携」「世界史への興味・関心を育む教材・指導法」についてのいくつかの取り組みを報告させていただきます。

高大連携について

今年度は栄光学園高校を会場に8月6日～8日の3日間、「近代のヨーロッパをどう学ぶか」というテーマで行いました。（別記事参照）また、高校・大学の教員が集まって新学習指導要領、新テストなど今後の歴史教育について研究する高大連携歴史教育研究会にも、本委員会から数名参加しており、今年度も7月に名古屋で行われた大会に参加する等、研究成果を吸収してまいりました。

本年度は3年に一度のAAWH（アジア世界史学会）が開催され、アジアの歴史研究者に交じって本委員会メンバーを中心とするパネルを出すことができ“Teaching the Exchange between Asian Regions and Japan in the Age of Imperialism : Practice in High School in Japan.”（帝国主義時代の日本とアジアの交流を教える；日本の高校における実践）というテーマで発表しました。私も発表させていただきましたが、拙い英語での未熟な発表で、質問に答えるのも難儀しました。ただし、3人とも、最新の研究を踏まえつつ、歴史総合を見すえた報告をすることができ、大変有意義な機会を頂けたと思います。（もし機会があれば、来年度の研究報告にレポートを載せさせていただきます。）

各大会での発表

5月16日の春季大会では市立横浜商業高校の智野豊彦先生が発表されました。AAWHのもととなった発表で、日本とオスマン帝国の関係について述べた、興味深い内容でした。（別記事参照）

3月8日の歴史分科会研究発表会では、県立鶴見高校の徳原拓哉先生がアメリカにおける黒人の反差別運動について取り上げました。現代とのつながりを考えた勢いのある発表でした。（別記事参照）

例会における読書会

例会においては、読書会を行っております。担当者が作ったレジュメに基づいて行っております。今年度は、南塚慎吾他編『新しい西洋史ーアジアから考える』（ミネルヴァ書房）と南塚信吾著『連動する世界史』（岩波書店）を扱いました。前者はアジア史を踏まえたヨーロッパ史の最新研究が詰まっており大変刺激的でした。各章、必ずアジアについての項目があり、アジアとの関係を踏まえてヨーロッパ史について学べる本でした。後者は、まだ読み始めたばかりですが、ヨーロッパをはじめとする世界史を踏まえた18世紀日本の歴史を扱った本です。これを読んでおけば、興味深く「歴史総合」の授業を始められると実感できる内容になっています。来年度も引き続き、この本を読んでまいります。

本委員会では、歴史や歴史研究の成果を楽しく勉強しながら、生徒の興味・関心を育む教材・指導法の研究に努めてまいります。若手、ベテラン関係なく、興味のある先生方は気軽にご参加ください。詳しくは舞岡高等学校中山拓憲までご連絡ください。